

信濃町の埋蔵文化財

長野県上水内郡信濃町

平成25年度町内遺跡発掘調査報告書

2 0 1 4

信 濃 町 教 育 委 員 会

例 言

1. 本書は平成25年度に実施した長野県上水内郡信濃町における開発事業に伴う試掘調査及び工事立会の報告書である。
2. 調査は国からの補助金交付を受けて信濃町教育委員会が実施した。
3. 本書の執筆、編集は調査担当者である渡辺哲也がおこなった。編集の補佐を黒澤由美がおこなった。
4. 本書に掲載した調査の遺物、写真等の資料はすべて信濃町教育委員会に保管されている。出土資料の記号は川久保遺跡が「13KK」、東裏遺跡が「13HU」、清水東遺跡が「13SH」、日向林B遺跡が「13HB」である。
5. 調査体制は次のとおりである。

調査主体者 信濃町教育委員会
事務局長 勝谷一男
教育次長 伊藤均
生涯学習係長 風間勉男

調査担当者 生涯学習係 渡辺哲也

発掘参加者

(小本遺跡) 田村勇
(川久保遺跡) 川口二郎、田村勇
(東裏遺跡) 川口二郎、田村勇
(清水東遺跡) 川口二郎、田村勇
(日向林B遺跡) 田村勇

整理参加者 黒澤由美、黒柳陽子

6. 土層の土色観察には『新版標準土色帖』[小山・竹原1967]を用いた。
7. 調査をおこなうにあたり、下記の方々や機関にご指導、ご協力をいただいた。記してお礼を申し上げます次第である。

(敬称略、五十音順)

青山幸平、荒井博文、池田富幸、遠藤佛子、小日向信一、黒田健一郎、小林醇、酒井亨、佐藤肥男、信濃町建設水道課、ソフトバンクモバイル株式会社、高橋正樹、中村真希男、広瀬朋智、吹野組共同アンテナ組合、丸山孝子、山川雄治、湯本航

目 次

I 信濃町の環境と遺跡	1
1. 自然的環境	1
2. 歴史的環境	2
II 調査の内容及び成果	3
1. 小本遺跡	3
2. 小本遺跡 (2013携帯電話基地局地点)	4
3. 川久保遺跡	5
4. 川久保遺跡	6
5. 川久保遺跡 (2013個人住宅地点)	6
6. 仲町遺跡	8
7. 海壇遺跡	9
8. 狐久保遺跡	10
9. 貫ノ木遺跡	10
10. 東裏遺跡 (2013個人住宅地点)	11
11. 柳原遺跡	13
12. 清水東遺跡 (2013個人住宅地点)	13
13. 吹野原A遺跡	15
14. 針ノ木遺跡	15
15. 日向林B遺跡 (2013個人住宅地点)	16
16. 狸助ノ原遺跡	18
17. 御料遺跡	19
18. 辻屋遺跡	19
写真図版	21

I 信濃町の環境と遺跡

1. 自然的環境

長野県上水内郡信濃町は長野県の北端に位置し、新潟県妙高市と県境を接している。日本海に面した海岸平野の高田平野と、内陸盆地の長野盆地との間にあたり、西には北から妙高、黒姫、飯縄火山、東には斑尾火山がそびえている。これらの火山に挟まれた地域には、標高650～750mの起伏に富んだ高原状の台地が広がっている(図1)。

西側の3つの火山では南に位置する飯縄山が最も古く、12から13万年前には活動を終了している。黒姫山は古期の活動が16から11万年前で、新期の活動がおおよそ6万年前に活発になり、3万年前頃には活動が衰えている。妙高山は新期の活動が10万年前頃にはじまり、約6000年前に中央火口丘が形成され、現在に至っている。これら3つの火山の活発な活動により、各火山体の東側一帯には火山灰層が広く厚く分布している。中部更新統の火山灰層は20～30m、上部更新統の火山灰層は10m程である。東側の斑尾山は西側の火山よりも古く、およそ30万年前には活動を終えていたと考えられている。この斑尾山の西麓に広がる緩やかな起伏の地形を、黒姫火山の崩壊によって生じた池尻川岩屑なだれ堆積物がせき止めたことにより、およそ7万年前に野尻湖の原型が誕生した。現在の野尻湖は面積が3.96km²で、水面の標高が654mである。こうした東西の火山に挟まれた低地帯があって、主に後期更新世から完新世の湖沼・河川堆積物からなる丘陵、段丘、低湿地などが現在の居住域となっている。

野尻湖の水は池尻川から南西へ流れ出した後、北へ向きを変えて関川に合流し、日本海へ注ぐ。長野市戸隠を

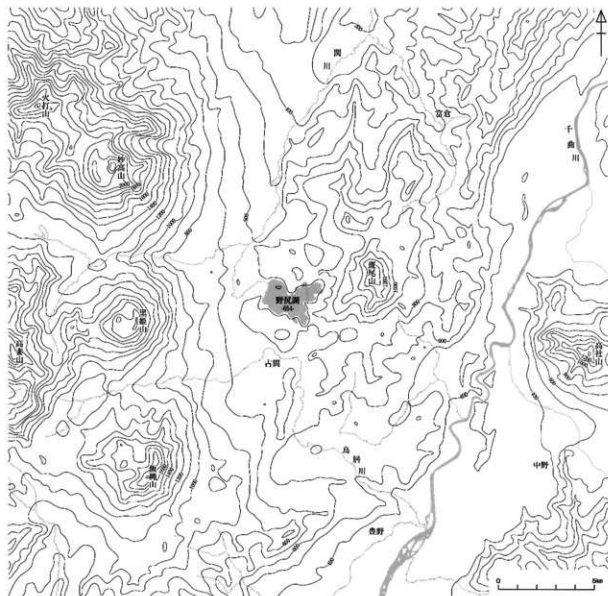


図1 信濃町周辺の地形

水源とする鳥居川は南東方向へ流れ出し、千曲川と合流して、その後信濃川と名前を変えて日本海へ注ぐ。二つの水系の分水嶺は現在の上位越自動車遺信濃町インターチェンジ付近と考えられるが、この辺りはなだらかな高原状の地形となっている。分水嶺がなだらかな地形であることは、急峻な山地を越えることなく内陸部へ向かうことができることを意味しており、古くから人や動物の移動経路になっていたものと推測される。

現在人々が暮らす居住域は標高700m前後の地域で、日本海側の気候に属し、冬期は寒冷で多雪、夏期は比較的涼で、避暑地としても利用されている。

2. 歴史的環境

信濃町は前述のような地形の特徴により、日本海側と内陸部をつなぐ交通の要所にあたるため、古くから人々の往来が盛んであったと考えられる。野尻湖西岸の湖底に広がる立が鼻遺跡はおよそ4万年前の狩猟・解体場

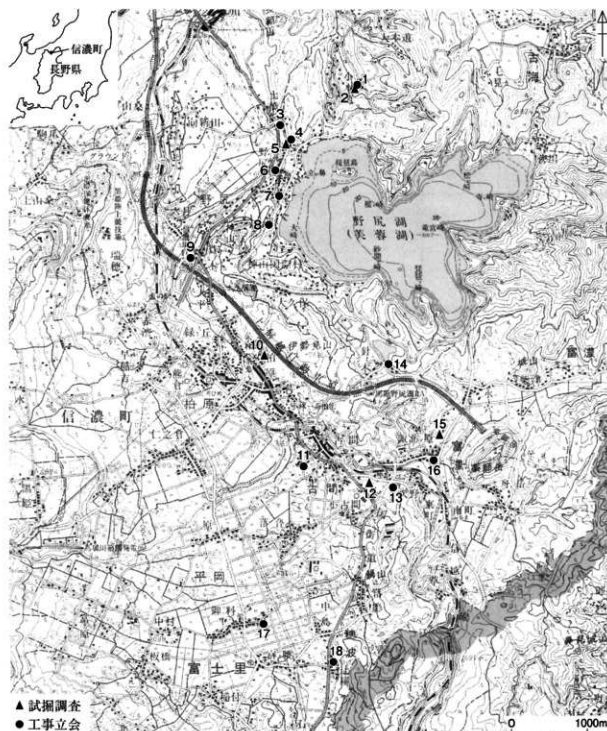


図2 調査地の位置（信濃町役場平成22年9月作成1/5,000地形図使用）※番号は表1に対応

表1 平成25年度に埋蔵文化財の通知・届出のあった遺跡一覧

No	遺跡名	よみ	原因	調査方法	調査面積(m ²)	調査期間	出土点数	発掘届日	終了届日
1	小本道	こほんどう	個人住宅	工事立会	(70)	9/3	0点	7/19	-
2	小本道	こほんどう	携帯電話基地局	試掘調査	6	10/28~10/29	0点	10/17	11/29
3	川久保	かわくほ	倉庫	工事立会	(66.42)	8/27	0点	8/14	-
4	川久保	かわくほ	個人住宅・車庫	工事立会	(163.5)	6/24	0点	4/26	-
5	川久保	かわくほ	個人住宅	試掘調査	4.5	6/13	5点	4/12	7/2
6	仲町	なかつち	倉庫	工事立会	(50)	4/22	0点	2/13	-
7	梅端	うみはた	個人住宅	工事立会	(63.5)	7/18	0点	5/20	-
8	狐久保	きつねくほ	倉庫	工事立会	(19.42)	10/17	0点	10/8	-
9	貫ノ木	かんのみき	個人住宅・倉庫	工事立会	(152.53)	8/19	0点	8/1	-
10	東森	ひがしうら	個人住宅	試掘調査	5.4	10/1	12点	9/26	10/21
11	柳原	やなぎはら	道路改良	工事立会	(2,130)	9/4	0点	3/8	-
12	清水東	しみずひがし	個人住宅	試掘調査	6	6/6~6/7	1点	5/24	6/14
13	吹野原A	ふきのほらえー	共同アンテナ	工事立会	(1)	11/25	0点	9/12	-
14	針ノ木	はりのみき	倉庫	工事立会	(40)	4/12	0点	3/14	-
15	日向林B	ひなたばやしびー	個人住宅	試掘調査	7	5/30~6/4	2点	5/21	6/10
16	頼助ノ原	すわのほら	個人住宅	工事立会	(116)	4/24	0点	3/14	-
17	御料	ごりょう	個人住宅	工事立会	(107.16)	12/6	0点	12/4	-
18	辻屋	つじや	倉庫	工事立会	(90)	8/26	0点	7/25	-

※調査面積の内、()内の数字は調査対象面積

(キルサイト)で、その周辺をナウマンゾウとそれを追う旧石器人が往来したと考えられている。野尻湖周辺には旧石器時代~縄文時代草創期の遺跡が40ヶ所あり、その遺跡のまわりは野尻湖遺跡群と称されている。構成する遺跡はそれぞれ面積が広く、遺物分布の密度が高いことから、野尻湖の西に連なる丘陵上にはとぎれることなく遺跡がつながっているような印象を受ける。近年、上信越自動車道建設や国道18号線の改築工事などにより、長野県埋蔵文化財センターや信濃町教育委員会によって多数の遺跡で広範囲に渡って発掘調査がおこなわれ、膨大な数の遺物が得られている。それらの遺物の様子からは、各方面から人々が流入してきたことがうかがえる。

古代では東山道支道が通っていたと推定され、また、江戸時代には北国街道が整備され、加賀金沢藩の参勤交代や、佐渡からの金銀の運搬など、重要な街道として利用されていた。現在は国道18号線、上信越自動車道、JR信越本線が通っており、交通の要所であることに変わりはない。また、関川がかつての信濃と越後の国境となっていたため、こうした歴史的な地理的条件を備えた地域でもある。中世の山城が多いことも、交通の要所として争奪戦がおこなわれた地であることを物語っている。

信濃町には現在までに173ヶ所の遺跡が知られている(信濃町教育委員会, 2003a)が、以下のように時代によって遺跡数の変遷に特徴が見出せる。①旧石器時代の遺跡が多く存在する。②縄文時代では草創期、早期の遺跡数が多く、前期以降の遺跡数は少なくなる。特に中期が少ない。③弥生時代、古墳時代の遺跡数は少なく、平安時代になると遺跡数が増加する。

II 調査の内容及び成果

埋蔵文化財包蔵地における土木工事に対し、平成25年度は18件の保護協議をおこない(図2、表1)、試掘調査を5件、工事立会を13件実施した。試掘調査の結果、本調査が必要と認められるものではなく、今年度は本調査を実施しなかった。原因では個人住宅建設が10件、倉庫建設が5件、道路改良が1件、テレビの共同アンテナ設置が1件であった。総数は昨年比で5件増加している。特に個人住宅建設が昨年よりも5件増加しており、平成26年4月に予定されている消費税の増税の影響も少なからずあったと考えられる。

以下に調査の内容及び成果を記述する。

1. 小本道遺跡

A. 概要

所在地	信濃町大字野尻字小本道2961
原因	個人住宅建設

調査方法	工事立会
調査面積	70㎡ (工事面積)
調査日	平成25年9月3日
出土遺物点数	0点

B. 遺跡の環境

野尻湖の北岸の道路から古海集落へ向かう県道信濃斑尾高原線の分岐点から700m程北へ行ったところに西側へ下る道があり、その先に小規模な盆地がある。その中に大本道と小本道の2つの集落があるが、小本道遺跡は小本道集落のほぼ全域に広がる(図3)。山地の裾部から北東方向の低地へと下る緩斜面上に広がり、縄文時代早期・前期の遺跡とされている(信濃町教育委員会, 2003a)が、これまでに発掘調査は実施されておらず、遺跡の詳細は不明である。

C. 調査に至る経緯と結果

遺跡内で個人住宅の建設が計画された(図3)。建設予定地は更地となっていたが、以前は住宅があり、雪のために倒壊したことから、今春に撤去したことで更地にしたということであった。過去の住宅の建設、及びその撤去により、遺跡が残されている範囲は少ないと予想されたこと、及び、基礎工事で掘削する外周の幅が60cm程度で、狭小のために発掘調査が困難と判断し、対応は工事立会とした。小型のバックホウで掘削された状況を確認したところ、建設範囲の4分の3は攪乱を受けた地層であったが、南西側の4分の1程度の範囲には自然堆積の地層が残されていた。ここに残された層は黄褐色土を含む暗褐色土で、流水の影響を受けていることから、ここに遺跡が残されている可能性は低いと判断した。遺構、遺物も確認できなかったことから遺跡への影響は少ないものと判断し、調査を終了した。

2. 小本道遺跡 (2013携帯電話基地局地点)

A. 概要

所在地	信濃町大字野尻字小本道2957-4
原因	携帯電話基地局建設
調査方法	試掘調査
調査面積	6㎡
調査期間	平成25年10月28日～29日
出土遺物点数	0点

B. 調査に至る経緯

遺跡内で携帯電話基地局の建設が計画された(図3)。建設予定地の現状は荒蕪地で、北東へ下る緩斜面であった。地形から、過去に大きな変化を受けておらず、遺跡が残されているものと考えられたことから、まずは試掘調査を実施して遺跡の状況を確認することとし、状況に応じて本調査へ移行することにした。

C. 調査の方法

工事の計画は高さ約40mの鉄塔を建設するため、10m×10mの範囲を掘削して基礎工事を実施するというものであった。試掘調査は掘削予定範囲の四隅に1.5×1.0mの試掘トレンチ(TP-1~4)を設定し、表土から手掘りによって発掘した(図4)。

D. 調査の結果

地形的に高い西側に設定したトレンチでは、地表下50cm程度まで達したところで水が染み出し、下位の発掘

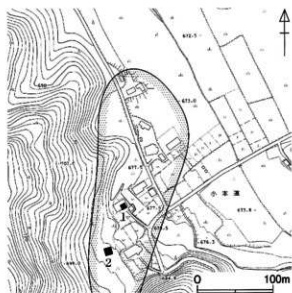


図3 小本道遺跡の範囲と調査地の位置



写真1 小本道遺跡



写真2 小本道遺跡の調査の様子

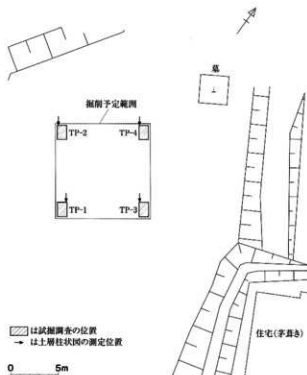


図4 小本道遺跡の試掘調査の位置

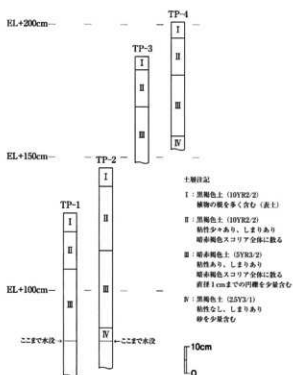


図5 小本道遺跡の土層

が困難となった(図5)。土層を見ると、I層からIV層まで黒ボク土であったが、II、III層には暗赤褐色スコリアを含み、III層には円礫、IV層には少量の砂の混入が認められ、上方から流れてきた土が溜まったことにより形成された地層と推測される。地下水位が高く、遺跡の立地としては条件の良い場所ではないこと、及び、遺構、遺物を確認することができなかったことから、この地点における遺跡の密度は低いと考え、本調査の必要はないと判断し、調査を終了した。



写真3 小本道遺跡 TP-2完掘状況

3. 川久保遺跡

A. 概要

所在地	信濃町大字野尻910
原因	住宅用倉庫建設
調査方法	工事立会
調査面積	66.42㎡(工事面積)
調査日	平成25年8月27日
出土遺物点数	0点

B. 遺跡の環境

川久保遺跡は野尻湖から約200m北西に位置する(図2)。旧国道18号線は江戸時代に整備された北国街道で、遺跡はこの道路の両側に細長い範囲で広がっている。寺山と呼ばれる山の西側の裾野にあたり、西側に広がる池尻川底地(西たんぼ)へ緩やかに下る斜面に立地している。

川久保遺跡は古くからその存在が知られ、縄文土器や土師器が採集されていて、信濃史料の遺跡の地名表に掲載されている(信濃史料刊行会、1956)。

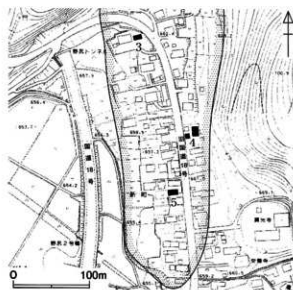


図6 川久保遺跡の範囲と調査地の位置

この遺跡の隣接地で野尻バイパス建設に先立って試掘調査がおこなわれた結果、このバイパスの路線上で遺跡が広がっていることが確認され、長野県埋蔵文化財センター（以下、県埋文センターと略す）によって平成11年～12年（1999～2000）に6,500㎡にわたって発掘調査が実施された（長野県埋蔵文化財センター、2004b）。縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世の遺物が出土したが、特に信濃町で出土例の少ない古墳時代の遺物がまとめて出土したことが特徴とされている。なお、この発掘調査によって川久保遺跡が野尻バイパスの建設地まで広がるということが確認されたが、信濃町の遺跡地図（信濃町教育委員会、2003a）には反映されなかったため、遺跡の範囲は調査以前のままとされている。ほかに平成13、14年に下水道工事に先立って試掘調査が実施され、少量の遺物が得られている（信濃町教育委員会、2010a、2011）。

C. 調査に至る経緯と結果

遺跡内で住宅用倉庫の建設が計画された（図6）。建設予定地は平坦な更地となっていたが、ここにはかつて倉庫が建っていたということであった。本体基礎工事で地表下45cm程度を掘削する計画であったが、掘削幅が60cmと狭小のために発掘調査は不可能と判断し、対応は工事立会とした。工事で小型バックホウによる掘削の際に立ち会ったところ、地表下には黒褐色土が全体に厚く分布していることがわかった。この土は下の層との関係から、土地を平坦に造成した後に黒褐色土を盛ったものと考えられたため、この黒褐色土は自然堆積によるものではないと判断した。よってこの地点に遺跡は残されていないと判断し、調査を終了した。

4. 川久保遺跡

A. 概要

所在地	信濃町大字野尻962-1
原因	個人住宅・車庫
調査方法	工事立会
調査面積	153.5㎡（工事面積）
調査日	平成25年6月24日
出土遺物点数	0点

B. 調査に至る経緯と結果

遺跡内で個人住宅と車庫の建設が計画された（図6）。現地を確認したところ、住宅は既存の住宅を撤去した

後にほぼ同位置に建設するという計画であるが、周辺の地形から見て既存の住宅が建っている面が傾斜地を平坦に造成していることがわかった。また、車庫の建設地もすでに平坦に整地され、舗装されていた。よって2つの建物の建設地は削平により、遺跡が残されていない可能性が高いと判断し、対応は工事立会とした。住宅建設のために小型のバックホウによって掘削する際に立ち会ったところ、地表下には黄灰色や黄褐色の粘土層が分布していることを確認した。黒ボク土を削平して造成したためと考えられ、この地点に遺跡が残されていないことを確認し、調査を終了した。

5. 川久保遺跡（2013個人住宅地点）

A. 概要

所在地	信濃町大字野尻876-イ
原因	個人住宅建設
調査方法	試掘調査
調査面積	4.5㎡
調査日	平成25年6月13日
出土遺物点数	5点

B. 調査に至る経緯

遺跡内で個人住宅の建設が計画された（図6）。現



写真4 川久保遺跡（倉庫建設）



写真5 川久保遺跡（住宅建設）



写真6 川久保遺跡の調査の様子

状が畑地であった
荒蕪地で、過去に大きな
改変を受けていないと考
えられたことから、試掘
調査を実施して状況確認
をおこない、必要に応じ
て本調査へ移行すること
にした。

C. 調査の方法

建設予定地は西側へ下
る傾斜地であった。当初
試掘のためのトレンチを、
建設予定地の四隅に設定
する予定であったが、北
東側の隅に低木があった

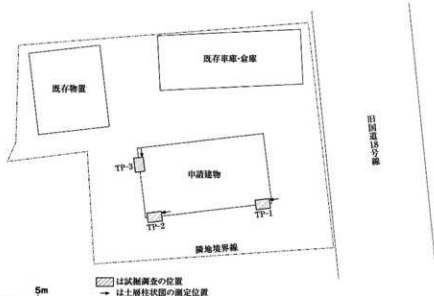


図7 川久保遺跡の試掘調査の位置

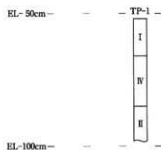


図9 川久保遺跡の遺物分布

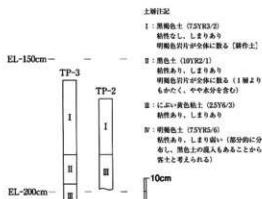


図8 川久保遺跡の土層

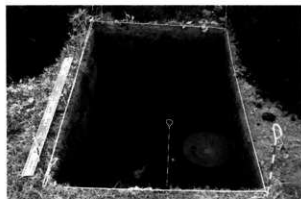


写真7 川久保遺跡 TP-1遺物出土状況

ためにトレンチが設定できなかったため、試掘は3ヶ所とした。1.5m×1mのトレンチを3ヶ所 (TP1~3) を設定し (図7)、手掘りによって発掘した。

D. 調査の結果

a. 層序

以前、畑地であったことから、地表下には耕作土 (I層) が20~30cmあり、TP-1ではその下位に明褐色土 (IV層) が分布していた (図8)。部分的な分布であり、黒色土が混入していることから、客土と考えられる。この中から、遺物 (石臼、古銭) が出土した。この層の下位には黒ボク土が分布している (II層)。地形的に低いTP-2とTP-3ではにぶい黄色の粘土が分布していた (III層)。粘性が強く、水成層と考えられる。

b. 遺物の出土状況

遺物はTP-1から出土した (図9)。粉挽き白の上白が、白の目のある下面を上にして、ほぼ水平に出土した。

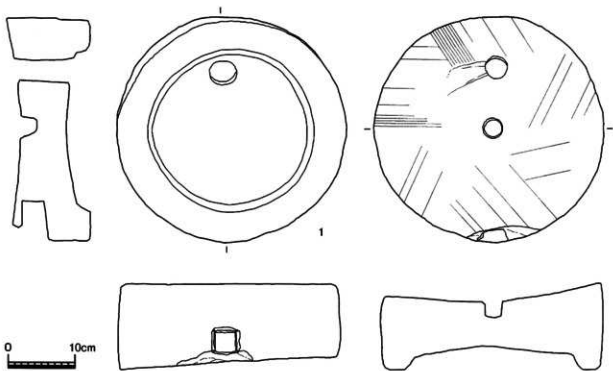


図10 川久保遺跡出土の石臼

その臼の上面付近から、寛永通宝4枚が重なった状態で出土した。

c. 出土遺物

1は粉挽き用の石臼の上臼で、臼の目は使用による摩耗によって不明瞭になっているが、6分画である。直径が約34cm、重さが18.6kgである。2は銅製の古銭が4枚重なったものである。一方の表面に寛永通宝の文字が読みとれ、ほかの3枚も大きさや厚さから見て同様であり、寛文8年以降の寛永通宝と思われる。

d. まとめ

調査地は旧北国街道野尻宿の宿場内にあたり、宿場では享保8年(1723)の大火などの火災にみまわれており、遺物の出土したIV層は、その焼土を含んでいる可能性がある。石臼は寛永通宝の下位から出土していることから江戸時代のもと考えられ、

災害の後に整地された際に混入した可能性が考えられる。

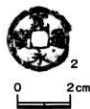


図11 川久保遺跡出土の寛永通宝

6. 仲町遺跡

A. 概要

所在地	信濃町大字野尻役屋敷606
原因	倉庫建設
調査方法	工事立会
調査面積	50㎡(工事面積)
調査日	平成25年4月22日
出土遺物点数	0点

B. 遺跡の環境

仲町遺跡は野尻湖の西側に北東—南西方面にのびる仲町丘陵上に広範囲に分布する遺跡で(図12)、旧石器時代から近世に至る複合遺跡である。野尻湖発掘調査団という研究団体が野尻湖底でナウマンゾウの化石等の発掘調査を1962年以來おこなっているが、その調査団が陸上に旧石器人の生活面を求めて学術発掘を実施したのがこの遺跡での調査のはじまりである。1974年の地質調査にはじまり、1976年の第1回陸上発掘か

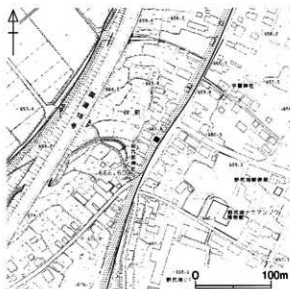


図12 仲町遺跡の範囲と調査地の位置

ら1998年の第8回までおこなわれた。緊急調査では1977年の水道管敷設工事に伴う調査（長野県上水内部信濃町水道課、1978）が最初で、以後、多くの調査が実施されている。特に国道18号野尻バイパス建設に先立って実施された発掘調査は大規模で、平成11年から3ヶ年に渡って実施された（長野県埋蔵文化財センター、2004a）。また、このバイパス建設のために移転する住宅建設に先立って発掘調査が実施されている（信濃町教育委員会、2000）。これらの発掘調査では旧石器時代の遺物が大量に得られ、ほかに縄文から近世までの遺構、遺物が検出されており、各時代でこの遺跡内が生活の場として利用されていたことがうかがえる。

C. 調査に至る経緯と結果

遺跡内で個人住宅用倉庫の建設が計画された（図12）。老朽化した倉庫を撤去した後にほぼ同位置へ新たな倉庫を建設するという計画で、基礎工事のための掘削幅が狭小であったために発掘調査は困難と判断されたことから、対応は工事立会とした。工事の際に小型のバックホウで掘削する時に立会ったところ、黒ボク土の中に2層の淡黄灰色粘土層を確認した。一部に焼土と炭の集中部が含まれ、近世の整地の後の可能性があると思われるが、掘削の範囲が狭小のために詳細は不明である。遺物は確認できなかったことから遺跡への影響は少ないものと判断し、調査を終了した。

7. 海端遺跡

A. 概要

所在地	信濃町大字野尻字海端270-11
原因	個人住宅建設
調査方法	工事立会
調査面積	63.5㎡（工事面積）
調査日	平成25年7月18日
出土遺物点数	0点

B. 遺跡の環境

野尻湖西岸の中央やや北側に位置する遺跡で、一部湖底を含み、湖岸から仲町丘陵の端部に達する遺跡である。遺跡内で過去に種子梨型尖頭器が2点採集されている。1点は昭和62年（1987）に干上がった野尻湖底で発見されたもので、もう1点は昭和34年（1959）に発見され、昭和62年（1987）に野尻湖ナウマンソウ博物館に移管されたものである（信濃町教育委員会、2008b）。しかし、本格的な発掘調査はおこなわれていないため、遺跡の詳細は不明である。倉庫建設に先立って平成18年（2006）に試掘調査が実施されたが、遺構は検出されず、縄文時代早期の土器と土師器が少量発掘されたのみである（信濃町教育委員会、2007a）。

C. 調査に至る経緯と結果

遺跡内で個人住宅の建設が計画された（図13）。既存の住宅を取り壊した後にほぼ同位置へ住宅を建設するという計画で、既存の住宅の建設及びその撤去によって大きな改変を受け、遺跡が残されている範囲は少ないと判断されたため、対応は工事立会とした。工事の際に小型バックホウで掘削した後現場を確認したところ、建設地全体に盛り土が施されており、掘削の深さは50cm程度であったが、盛り土の範囲内収まり、



写真8 仲町遺跡

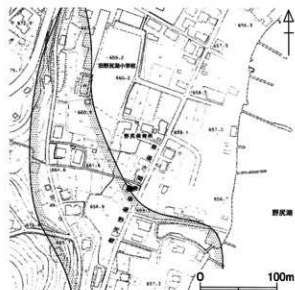


図13 海端遺跡の範囲と調査地の位置



写真9 海端遺跡

掘削が旧地表面まで達していないことが確認できた。遺跡には影響ないことが判明したことから、調査を終了した。

8. 狐久保遺跡

A. 概要

所在地	信濃町大字野尻狐久保380-3、380-4
原因	倉庫建設
調査方法	工事立会
調査面積	19.42㎡(工事面積)
調査日	平成25年10月17日
出土遺物点数	0点

B. 遺跡の環境

狐久保遺跡は野尻湖の西岸でもっとも西へ張り出した先に位置し、北北東へ緩やかに下る斜面に立地する(図14)。遺跡内では1967年に県道建設に伴う発掘調査が実施され、縄文時代草創期の隆起線文土器等が出土している(小林, 1968)。また、個人住宅建設に伴う試掘調査がこれまでに2件実施され、2002年の調査では弥生時代の遺物が出土し(信濃町教育委員会, 2003b)、2005年の調査では縄文時代晩期の遺物が出土している(信濃町教育委員会, 2006)。

C. 調査に至る経緯と結果

遺跡内で個人住宅用の倉庫建設が計画された(図14)。計画は前年建設した住宅の隣に倉庫をつくるというもので、その住宅を建設する際に工事立会を実施している(信濃町教育委員会, 2013)。住宅建設の際に50-170cmの盛り土をおこなっており、今回の倉庫の建設地はほとんどが盛り土の範囲内に当たっていた。基礎の南側の面のみが盛り土をおこなっていないところを掘削する計画であり、その掘削の際に立ち会いをおこなった。約1mの範囲で自然堆積の黒ボク土が残っていたが、そこから遺構、遺物は検出されなかったことから、遺跡に大きな影響はないと判断し、調査を終了した。

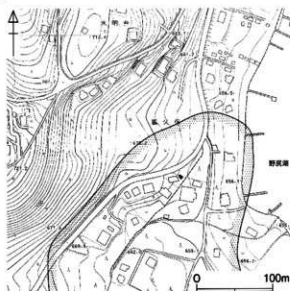


図14 狐久保遺跡の範囲と調査地の位置



写真10 狐久保遺跡

9. 貫ノ木遺跡

A. 概要

所在地	信濃町大字野尻1466-12、28
原因	個人住宅、倉庫
調査方法	工事立会
調査面積	152.53㎡(工事面積)
調査日	平成25年8月19日
出土遺物点数	0点

B. 遺跡の環境

貫ノ木遺跡は照月台遺跡から南西側に続く丘陵上に広範囲に分布する遺跡で、これまでに多数の発掘調査が実施され、旧石器時代や縄文時代早期などの遺物が多数得られている。これまでもおこなわれた調査は、1985、1988年に野尻湖発掘調査団による学術調査(野尻湖人類考古グループ, 1987、1990)、1991、1992年に保養施設建設に伴う発掘調査(渡辺・中村, 1992)。

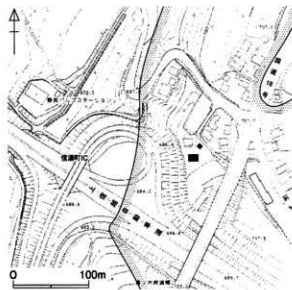


図15 貫ノ木遺跡の範囲と調査地の位置

1994年に個人住宅建設に伴う発掘調査（信濃町教育委員会、1995）、1993～1995年に上信越自動車道建設に伴う発掘調査（長野県埋蔵文化財センター、2000b）、1994～1996、1999年に国道18号線改築工事に伴う発掘調査（長野県埋蔵文化財センター、2004c）、1997年の天然ガスパイプライン建設に伴う発掘調査（信濃町教育委員会、2010b）などである。

C. 調査に至る経緯と調査の結果

遺跡内で個人住宅と倉庫の建設が計画された（図15）。計画は既存の住宅の庭に新たに住宅と倉庫を建設するというもので、住宅本体基礎工事で外周の深さは50cm程度まで掘削する予定であったため、遺物包含層に達することが予想された。しかし、掘削幅が50cm程度で、狭小のために事前の発掘調査が困難なため、対応は工事立会とした。工事の際に小型バックホウで掘削した後に現場を確認したところ、北側は掘削の深度が30cm程度で、黒ボク土である柏原黒色火山灰層内で取った。南側は掘削の深度が50cm程度であり、黒ボク土よりも下位の、野尻湖発掘調査団で「モヤ」と呼ばれている暗黄褐色土の層まで達した。「モヤ」は旧石器時代の細石器文化の遺物を含む層であり、その層まで攪乱を受けずに良好な状況で残されていることを確認した。掘削された土からは遺物を検出することはできず、調査を終了した。



写真11 貫ノ木遺跡

10. 東裏遺跡（2013個人住宅地点）

A. 概要

所在地	信濃町大字柏原256-1、5
原因	個人住宅建設
調査方法	試掘調査
調査面積	5.4㎡
調査日	平成25年10月1日
出土遺物点数	12点

B. 遺跡の環境

東裏遺跡は伊勢見山と国道18号線との間に位置し、伊勢見山南西側の山麓に、北西～南東方向に細長く広がる遺跡である。この遺跡は面積が広いことから、過去に多数の発掘調査が実施されてきた。主な調査は宅地造成と町道建設に伴う発掘調査（信濃町教育委員会、2004）、1993～1995年の上信越自動車道建設に伴う発掘調査（長野県埋蔵文化財センター、2000a）、1996年の高速道路バスストップ建設、個人住宅建設に伴う発掘調査（信濃町教育委員会、1997）、1997年の天然ガスパイプライン建設に伴う発掘調査（信濃町教育委員会、2007b）、1999年の個人住宅建設に伴う発掘調査（信濃町教育委員会、2000）などがあり、ほかにも小規模な発掘調査がおこなわれている（信濃町教育委員会、2003b、2005、2007a、2008a、2012a）。

C. 調査に至る経緯

遺跡内で個人住宅の建設が計画された（図16）。現状が畑地であり、過去に大きな改変を受けていないことが予想されたことから、試掘調査を実施し（図17）、その結果をもとに、必要に応じて本調査へ移行することにした。

D. 調査の結果

a. 層序

I層は耕作土で、その下位にはII層以下、ローム層

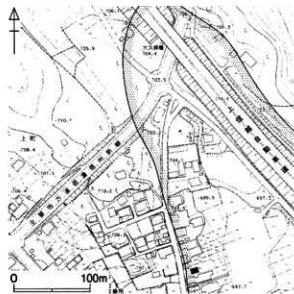


図16 東裏遺跡の範囲と調査地の位置



写真12 東裏遺跡の調査の様子

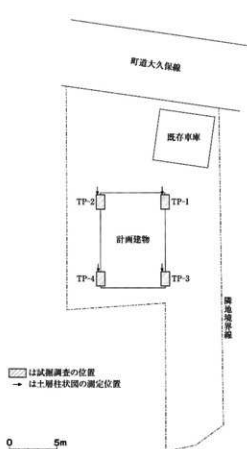


図17 東裏遺跡の試掘調査の位置

となっている(図19)。I層とその下位の層との境界は直線的になっており、これはかつて傾斜地を切り土して平坦にし、その後に耕作土の黒褐色土を上面に戻したことによるものと思われる。よって、本来この地にあった地層が、削平により一部欠落していると考えられる。

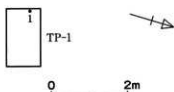


図18 東裏遺跡の遺物分布



写真13 東裏遺跡の遺物出土状況

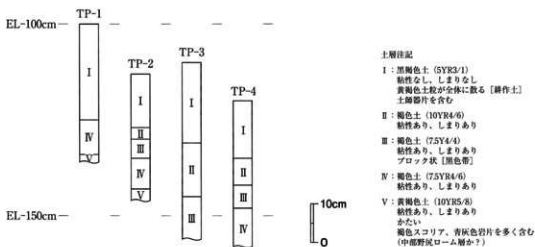


図19 東裏遺跡の土層

表2 東裏遺跡 土師器観察表

No.	遺物番号	層	種類	器種	部位	色(外)	色(内)	含有物	厚さ(mm)	備考
1	13HU-TPI-1	I	土師器	杯	底部	にぶい橙色	にぶい橙色	ho qt シロ アカ レキ	8	回転糸切り底

※ ho は角閃石、qt は石英、シロは白色岩片、アカは赤色岩片、レキは2mm以上の小礫を表す

b. 出土遺物

遺物は12点採集されているが、発掘によって出土したものは1点のみで、ほかの11点は表面採集による。発掘で出土したのはTP-1トレンチのI層(耕作土)からで、土師器の杯底部の一部である(表2)。小片のために図化はできなかった。表面採集された遺物の内訳は黒曜石製の石器1点、土師器の小片8点、陶器の小片2点で

ある。それぞれが小片であり、数も少ないことから、遺物の時期を特定することは困難であるが、土師器は平安時代、陶器は近世のものと考えておきたい。

c. まとめ

調査地点のかつての地形は傾斜地であり、それを平坦に造成して現在の平らな畑にしていることが、地層の観察から判明した。遺物はすべて耕作土中からで、耕作の影響のために小片となっている。この耕作土は土地を削平した後に戻されたものと考えられることから、調査地にはかつて平安時代などの遺跡があったが、造成と耕作によって遺構は消滅し、遺物のみが小片となって耕作土に含まれているということになったと考えられる。

11. 柳原遺跡

A. 概要

所在地	信濃町大字古間491-1 先
原因	道路改良工事
調査方法	工事立会
調査面積	2,130㎡ (工事面積)
調査日	平成25年9月4日
出土遺物点数	0点

B. 遺跡の環境

柳原遺跡は旧北国街道古間宿を東に望む段丘上の高台に位置する。西側には一段低い面に水田が広がり、段丘面と水田との比高は約80mである(図20)。信濃町に5校ある小学校を統合し、信濃中学校の敷地内に新たな校舎を建設する方針が出されたために実施した試掘調査では、信濃中学校建設当時(昭和43～45年)に傾斜地を平坦にするため、地形の高い西側を削平し、低い東側へ埋め立てて造成したことが判明し、埋め立てられたグラウンドの東側3分の1程度には遺物包含層が残されていることを確認している(信濃町教育委員会, 2007a)。

C. 調査に至る経緯と調査の結果

遺跡内で道路改良工事が計画された(図20)。信濃小学校との校舎に並行する道路は、平成18年の試掘調査で信濃中学校建設当時の造成によって遺跡が消滅していることが確認され、その後、信濃小学校の建設時にグラウンドに造成されたところを拡幅するという改良計画である。すでに遺跡が消滅している場所であるため、工事の状況を確認し、調査を終了した。

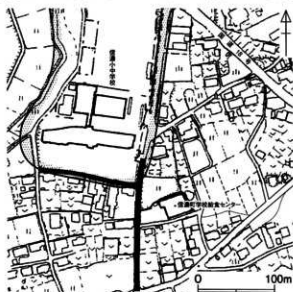


図20 柳原遺跡の範囲と調査地の位置



写真14 柳原遺跡

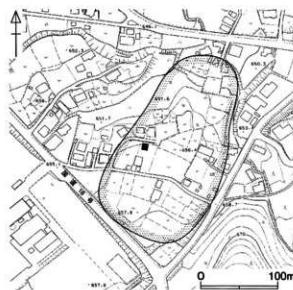


図21 清水東遺跡の範囲と調査地の位置

12. 清水東遺跡 (2013個人住宅地帯)

A. 概要

所在地	信濃町大字古間1381-2、7
原因	個人住宅建設
調査方法	試掘調査
調査面積	6㎡
調査日	平成25年6月6日～7日
出土遺物点数	1点

B. 遺跡の環境

清水東遺跡は吹野集落と小古間集落との間に挟まれた微高地に広がる遺跡で、旧石器時代、縄文時代、平



図22 清水東遺跡の試掘調査の位置

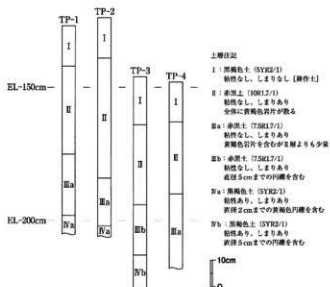


図23 清水東遺跡の土層

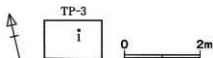


図24 清水東遺跡の遺物分布

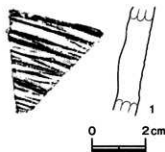


図25 清水東遺跡出土の珠洲焼片

表3 清水東遺跡 珠洲焼観察表

No.	遺物番号	層	種類	器種	部位	色(外)	色(内)	厚さ(mm)	備考
1	13SH-TP3-1	III b	珠洲焼	甕	胴部	褐灰色	褐灰色	9~11	外面に平行肌目

安時代の遺跡とされている(信濃町教育委員会, 2003a)。この遺跡は、個人の方が採集した遺物が野尻湖博物館(現在の野尻湖ナウマンゾウ博物館)に寄贈されたことによって確認された。その遺物は旧石器時代の彫器と縄文時代早期の押型文土器である(野尻湖博物館, 1987)。しかし、国道18号野尻バイパス改築工事に伴う発掘調査(長野県埋蔵文化財センター, 2013)や、個人住宅建設に伴う試掘調査(信濃町教育委員会, 2013)では遺構、遺物は検出されておらず、遺跡の性格等、詳細は不明である。

C. 調査に至る経緯

遺跡内で個人住宅の建設が計画された(図21)。現状は荒蕪地で、かつて畑地であったところであり、過去に大きな変更を受けていないことが予想されたことから、試掘調査を実施し、その結果をもとに、必要に応じて本調査へ移行することにした。

D. 調査の方法

住宅の建設予定地の四隅に1.5m×1.0mの試掘トレンチ(TP-1~4)を設定し(図22)、基礎工事で掘削する予定の深さ80cm程度まで、地表から手掘りにより発掘した。

E. 調査の結果

a. 層序

掘削した約80cmの深さまで黒ボク土が厚く堆積していた(図23)。色と含有物の違いから層を分けたが、黄褐色岩片や円礫を含んでおり、低い土地のために流水の影響を受けて堆積したものと思われる。遺物が1点出土しているが、III b層からである。



写真15 清水東遺跡の調査の様子



写真16 清水東遺跡 TP-3完掘状況

b. 出土遺物

遺物はTP-3から珠洲焼片が1点出土した(図25)。大甕の一部と思われ、珠洲焼がこの地域に流通した室町時代の所産と考えられる。

c. まとめ

調査地には黒ボク土が厚く堆積しているが、もともと周辺よりも低い土地へ流れ込んで堆積したことによるものと考えられる。遺物は珠洲焼片の単独出土であり、この遺物も周辺から流水等の影響で移動してきたものと考えられ、原位置を保っていないと思われる。遺構も確認できなかったことから、調査地は遺跡の密度が低い地点と考えられる。

13. 吹野原A遺跡

A. 概要

所在地 信濃町大字古間1422-2
 原因 テレビ用共同アンテナ
 調査方法 工事立会
 調査面積 1㎡(工事面積)
 調査日 平成25年11月25日
 出土遺物点数 0点

B. 遺跡の環境

吹野原A遺跡は、鍋山から緩やかに北側へ下る傾斜地に広がる遺跡で、広域農道建設に先立っておこなわれた発掘調査では、後期旧石器時代前半を中心とした石器が大量に出土している。平成13年度に県道の道路改良工事に伴って長野県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施しており、成果が報告されている(長野県埋蔵文化財センター、2002)。

C. 調査に至る経緯と調査の結果

遺跡内でテレビ用共同アンテナの設置工事が計画された(図26)。工事は直径20cm弱の支柱を埋めるために手掘りによって穴を掘ったのみで、遺物は検出されなかったことから、調査を終了した。

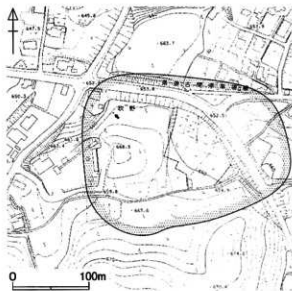


図26 吹野原A遺跡の範囲と調査地の位置



写真17 吹野原A遺跡

14. 針ノ木遺跡

A. 概要

所在地 信濃町大字富濃4022
 原因 倉庫建設
 調査方法 工事立会
 調査面積 40㎡(工事面積)

調査日 平成25年4月12日
出土遺物点数 0点

B. 遺跡の環境

針ノ木遺跡は野尻湖の南側の山間にできた小盆地内に、南に向けた傾斜面に分布する遺跡で、町道改良工事に伴う発掘調査（信濃町教育委員会、2012b）や上信越自動車道建設工事に伴う発掘調査（長野県埋蔵文化財センター、2000b）がおこなわれており、縄文時代の遺物と、平安時代の堅穴建物跡が検出されている。

C. 調査に至る経緯と調査の結果

遺跡内で住宅用倉庫の建設が計画された（図27）。建設予定地は住宅に隣接した宅地内で、基礎工事による掘削幅が50cm程度と狭小のために発掘調査は不可能と判断し、対応は工事立会とした。工事で小型バックホウにより掘削する際に立ち会ったところ、地表下には黄褐色土が分布しているのを確認した。地形を見ると裏山を平坦に造成して宅地としたことがわかった。遺物包含層の黒ボク土は土地の造成によってすでに残されていないことが確認され、この地点に遺跡は残されていないと判断し、調査を終了した。

15. 日向林B遺跡（2013個人住宅地点）

A. 概要

所在地 信濃町大字富濃2257-167
原因 個人住宅建設
調査方法 試掘調査
調査面積 7㎡
調査日 平成25年5月30日～6月4日
出土遺物点数 2点

B. 遺跡の環境

日向林B遺跡は水穴集落と諏訪ノ原集落の間に位置する丘陵の、南東方向の低地に向かって緩やかに下る斜面に広がる遺跡で、旧石器、縄文、平安、中世の複合遺跡である。今回の調査地の東側では1996年に個人住宅建設に伴う発掘調査がおこなわれ、縄文時代早期、前期、後期の遺物が得られている。また、この遺跡内では1993年から1995年に上信越自動車道建設に伴う発掘調査がおこなわれ、旧石器時代前半の遺物が大量に出土し、遺物の分布状況から環状の集落跡と考えられている（長野県埋蔵文化財センター、2000c）。この遺跡から出土した石器類は現在、国の重要文化財に指定されている。

C. 調査に至る経緯

遺跡内で個人住宅の建設が計画された（図28）。現状は荒蕪地で、かつて畑地であったところであり、過去に大きな改変を受けていないことが予想されたことから、試掘調査を実施し、その結果をもとに、必要に応じて本調査へ移行することにした。

D. 調査の方法

住宅の建設予定地に1.5m×1.0mの試掘トレンチ

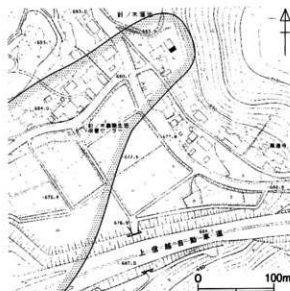


図27 針ノ木遺跡の範囲と調査地の位置



写真18 針ノ木遺跡

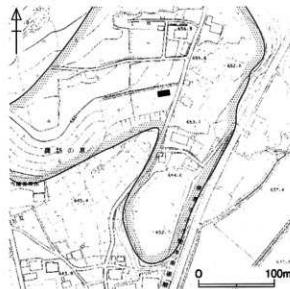


図28 日向林B遺跡の範囲と調査地の位置

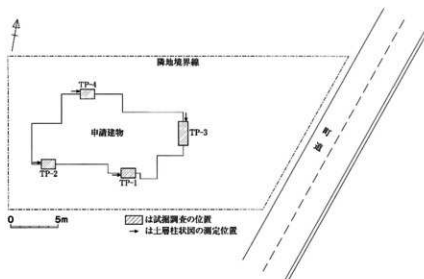


図29 日向林B遺跡の試掘調査の位置

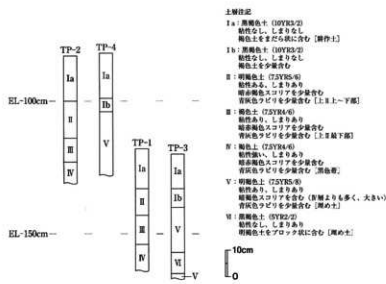


図30 H日向林B遺跡の土層



写真19 日向林B遺跡の調査の様子

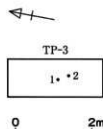


図31 日向林B遺跡の遺物分布

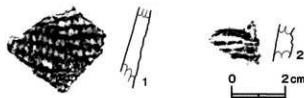


図32 日向林B遺跡出土の縄文土器片

表4 日向林B遺跡 縄文土器観察表

№	遺物番号	層	種類	文様	部位	繊維痕	色(外)	色(内)	含有物	厚さ(mm)	備考
1	13HB-TP3-1	I b	縄文土器	縄文	胴部	有	にぶい褐色	褐灰色	ho qt シロ アカ	6~8	単節LR
2	13HB-TP3-2	I a	縄文土器	沈線文	胴部	有	にぶい褐色	にぶい褐色	ho qt シロ アカ	6	

※ hoは角閃石、qtは石英、シロは白色岩片、アカは赤色岩片を表す

(TP-1~4)を設定し(図29)、基礎工事で掘削する予定の深さ50cm程度まで、地表から手掘りにより発掘した。遺物が出土したTP-3は1m拡張をしたが、新たな遺物が出土しなかったことから、それ以上の拡張はおこなわ

なかった。

E. 調査の結果

a. 層序

耕作土（I a層）の下位に褐色土を少量含むI b層のある地点があり、II層からIV層はこの地域に自然堆積するローム層である。VI層が黒褐色土であるために埋め土と考えられ、その上位のV層も同様に埋め土と思われる（図30）。遺物はI a層とI b層から出土している。旧石器時代の遺物がII層からIV層の中から出土することを期待したが、出土しなかった。

b. 出土遺物

遺物はTP-3から縄文土器が2点出土した（図32）。1は単節LRの縄文を施した土器で、2は平行した沈線を施した土器である。いずれも縦維痕が見られ、縄文時代早期後半の所産と考えられる。

c. まとめ

地点は違うが、この遺跡内では旧石器時代の遺物が大量に出土していることから、II層からIV層にかけてのローム層から旧石器時代の遺物が出土することが期待されたが、石器の出土はなかった。遺物は縄文早期の土器片2点で、これらの遺物は耕作により移動している可能性が高い。よって今回調査した地点の遺跡の密度は低いものと考えられる。



写真20 日向林B遺跡 TP-3の遺物出土状況

16. 諏訪ノ原遺跡

A. 概要

所在地	信濃町大字富濃2014
原因	個人住宅
調査方法	工事立会
調査面積	116mf（工事面積）
調査日	平成25年4月24日
出土遺物点数	0点

B. 遺跡の環境

諏訪ノ原遺跡は鳥居川の北側の、山地との間に広がる平坦地に分布する遺跡で（図33）、縄文時代と平安時代の遺跡とされている（信濃町教育委員会、2003a）。遺跡内ではこれまでに個人住宅建設に伴う試掘調査がおこなわれているが、縄文時代の石器と土器器片が少量出土しているのみであった（信濃町教育委員会、2007a）。本格的な発掘調査が実施されていないことから、遺跡の詳細は不明である。

C. 調査に至る経緯と調査の結果

遺跡内で個人住宅の建設が計画された（図33）。住宅を取り壊した後の更地へ、ひとまわり小さい住宅を建設するという計画で、既存の住宅の建設及びその撤去によって大きな改変を受け、遺跡が残されている範囲は少ないと判断されたため、対応は工事立会とした。工事で小型バックホウにより掘削する際に立ち会ったところ、地表下には黄褐色土が分布しているのを確認した。過去の住宅を建設する際に、傾斜地を平坦に造成したことが地形から確認できた。遺物包含層の黒ボク土は土地の造成によってすでに失われていることが確認されたため、この地点に遺跡は残されていないと判断し、調査を終了した。

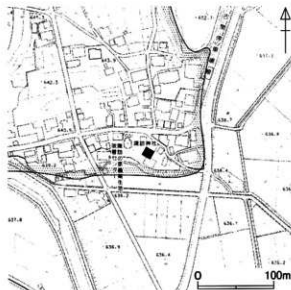


図33 諏訪ノ原遺跡の範囲と調査地の位置



写真21 諏訪ノ原遺跡

17. 御料遺跡

A. 概要

所在地	信濃町大字平岡1585-1
原因	個人住宅
調査方法	工事立会
調査面積	107.16㎡(工事面積)
調査日	平成25年12月6日
出土遺物点数	0点

B. 遺跡の環境

御料遺跡は低地の中の微高地に形成された御料集落のほぼ全体に広がる遺跡で、縄文時代と平安時代の遺跡とされている(信濃町教育委員会, 2003b)。これまでに個人住宅や家庭用倉庫建設に伴う試掘調査や工事立会がおこなわれている(信濃町教育委員会, 2008a, 2010a, 2012a)が、本格的な発掘調査は実施されていないことから、遺跡の詳細は不明である。

C. 調査に至る経緯と調査の結果

遺跡内で個人住宅の建設が計画された(図34)。これまで畑であった場所へ住宅を建設するということから、遺跡が良好に残されているものと思われたが、基礎工事による掘削幅が60cm程度で狭小なために発掘調査は困難と判断し、対応は工事立会とした。小型バックホウにより深いところで60cm程度掘削され、地層を観察したところ、地表下20~30cmに黒ボク土が分布し、その下位に粘土層を確認した。粘土層は水成層であり、この層には遺跡がないと考えられる。黒ボク土中に遺跡が残されている可能性はあったが、掘削したところを見る限り、遺構、遺物を検出することはできなかった。そのため、今回の掘削により遺跡に与える影響は少ないものと判断し、調査を終了した。

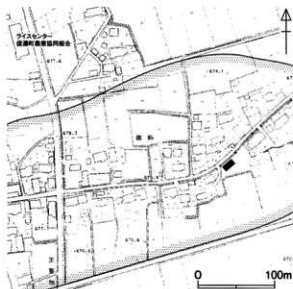


図34 御料遺跡の範囲と調査地の位置



写真22 御料遺跡

18. 辻屋遺跡

A. 概要

所在地	信濃町大字総波63-1
原因	倉庫建設
調査方法	工事立会
調査面積	90㎡(工事面積)
調査日	平成25年8月26日
出土遺物点数	0点

B. 遺跡の環境

辻屋遺跡は辻屋集落の全体とその西側に広がる遺跡で、東側の山地から西側へ下る緩傾斜地と平地からなる。遺跡の西端には滝沢川が流れている。平成4年(1992)に事業所建設に先立って発掘調査がおこなわれ、15世紀の集落跡が検出されている(信濃町教育委員会, 2007c)。また、平成23年(2011)に宅幼老所建設に先立って試掘調査がおこなわれ、10世紀の堅穴建物跡が検出されている(信濃町教育委員会, 2012a)。

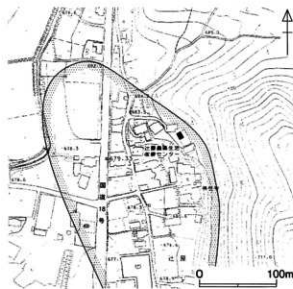


図35 辻屋遺跡の範囲と調査地の位置

C. 調査に至る経緯と調査の結果

遺跡内で家庭用倉庫の建設が計画された(図35)。かつて住宅があった場所で現在更地になっているところへ建設するという計画であるが、基礎工事による掘削幅が60cm程度で狭小なために発掘調査は困難と判断し、対応は工事立会とした。工事で小型バックホウにより掘削する際に立ち会ったところ、地表下には黄褐色土が分布しているのを確認した。建設地の東側には山を削った法面が見られ、切り土によって平坦に造成されていることが地形から確認できた。遺物包含層の黒ボク土は土地の造成によってすでに失われていることが確認されたため、この地点に遺跡は残されていないと判断し、調査を終了した。

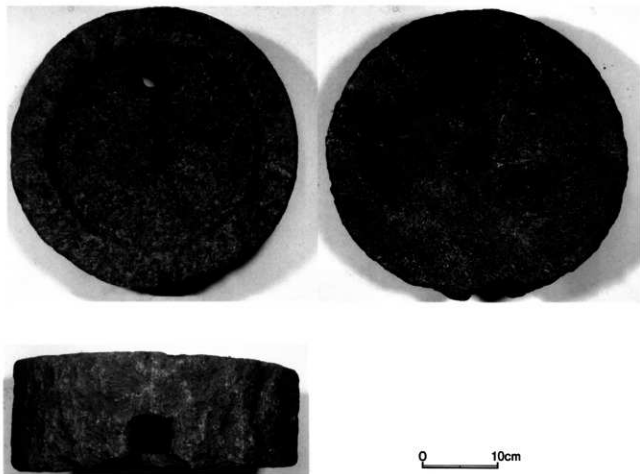


写真23 辻屋遺跡

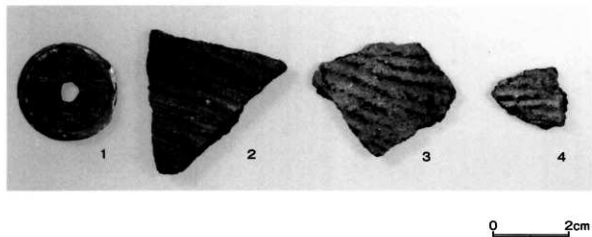
文献

- 小林学 1968 「長野県上水内部信濃町狐久保遺跡緊急発掘調査概報」『信濃町誌』
小山正忠・竹原秀雄 1967 「新版 標準土色帖」
信濃史料刊行会 1956 「信濃史料 第1巻上」
信濃町教育委員会 1995 「貫ノ木遺跡・日向林B遺跡(個人住宅地点)発掘調査報告書」
信濃町教育委員会 1997 「大道下遺跡(4次)ほか信濃町内遺跡発掘調査報告書」
信濃町教育委員会 2000 「仲町遺跡(個人住宅地点)ほか発掘調査報告書」
信濃町教育委員会 2003a 「信濃町の遺跡分布図」
信濃町教育委員会 2003b 「平成14年度町内遺跡発掘調査報告書」
信濃町教育委員会 2004 「東東遺跡 東東団地地点・町道築山地点発掘調査報告書」
信濃町教育委員会 2005 「平成16年度町内遺跡発掘調査報告書-杉久保遺跡ほか-」
信濃町教育委員会 2006 「平成17年度町内遺跡発掘調査報告書-狐久保遺跡ほか-」
信濃町教育委員会 2007a 「平成18年度町内遺跡発掘調査報告書-清明台遺跡ほか-」
信濃町教育委員会 2007b 「上ノ原遺跡・東東遺跡・裏ノ山遺跡」
信濃町教育委員会 2007c 「役原敷ほか発掘調査報告書」
信濃町教育委員会 2008a 「平成19年度町内遺跡発掘調査報告書-大道下遺跡ほか-」
信濃町教育委員会 2008b 「セツ栗遺跡発掘調査報告書-神子柴型石斧と旧石器・縄文時代の遺跡-」
信濃町教育委員会 2010a 「平成21年度町内遺跡発掘調査報告書」
信濃町教育委員会 2010b 「貫ノ木遺跡・嵐光山A遺跡」
信濃町教育委員会 2011 「平成22年度町内遺跡発掘調査報告書-宮ノ腰遺跡ほか-」
信濃町教育委員会 2012a 「平成23年度町内遺跡発掘調査報告書-辻屋遺跡ほか-」
信濃町教育委員会 2012b 「杉久保遺跡・丸谷地遺跡・一平塚遺跡ほか信濃町遺跡発掘調査報告書」
信濃町教育委員会 2013 「平成24年度町内遺跡発掘調査報告書-上山桑A遺跡ほか-」
長野県上水内部信濃町水道課 1978 「野尻伸町水道工事立会調査報告書」
長野県埋蔵文化財センター 2000a 「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書15 信濃町内その1 裏ノ山遺跡・東東遺跡・大久保南遺跡・上ノ原遺跡」
長野県埋蔵文化財センター 2000b 「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書16 信濃町内その2 縄文時代～近世編」
長野県埋蔵文化財センター 2000c 「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書15 信濃町内その1 日向林B遺跡・日向林A遺跡・セツ栗遺跡・大平B遺跡」
長野県埋蔵文化財センター 2002 「県道改修(一)古岡(停)線埋蔵文化財発掘調査報告書 信濃町内 吹野原A遺跡」
長野県埋蔵文化財センター 2004a 「一般国道18号(野尻バイパス)埋蔵文化財発掘調査報告書3 信濃町内その3 仲町遺跡」
長野県埋蔵文化財センター 2004b 「一般国道18号(野尻バイパス)埋蔵文化財発掘調査報告書4 信濃町内その4 川久保遺跡」
長野県埋蔵文化財センター 2004c 「一般国道18号(野尻バイパス)埋蔵文化財発掘調査報告書2 信濃町内その2 貫ノ木遺跡・照月台遺跡」
長野県埋蔵文化財センター 2013 「一般国道18号(野尻バイパス)埋蔵文化財発掘調査報告書 信濃町内その5 大道下遺跡・清水東遺跡」
野尻湖人類考古グループ 1987 「野尻湖遺跡群の旧石器・縄文草創期文化」『専報第32号 野尻湖の発掘4(1984-1986)』
野尻湖人類考古グループ 1990 「野尻湖遺跡群の旧石器・縄文草創期文化2」『専報第37号 野尻湖の発掘5(1987-1989)』
野尻湖人類考古グループ 1994 「野尻湖遺跡群における文化層と旧石器文化」『野尻湖博物館研究報告第2号』
野尻湖博物館 1987 『博物館だより No.16』
渡辺哲也・中村由克 1992 「信濃町貫ノ木遺跡の調査」『第5回長野県旧石器文化研究交流会-発表要旨-』

写真図版



遺物写真1. 川久保遺跡（2013個人住宅地点）出土の石臼



遺物写真2. 1. 川久保遺跡（2013個人住宅地点）、2. 清水東遺跡、3・4. 日向林B遺跡出土

報告書抄録

書名		平成25年度町内遺跡発掘調査報告書						
副書名								
シリーズ名		信濃町の福蔵文化財						
シリーズ番号								
編者名		渡辺哲也						
編集機関		信濃町教育委員会						
所在地		〒389-1305 長野県上水内郡信濃町柏原428-2 TEL: 026-255-5923						
発行年月日		2014年(平成26年)3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
えんどう 小本道	長野県上水内郡信濃町大字 野尻字小本道2957-4	20583	22	36度 84分 25秒	138度 21分 66秒	20131028 ～ 20131029	6	試掘調査 (携帯電話基地局)
かわくぼ 川久保	長野県上水内郡信濃町大字 野尻字段原敷635-1、635-4	20583	33	36度 83分 66秒	138度 20分 66秒	20130613	4.5	試掘調査 (個人住宅)
あづま 東墓	長野県上水内郡信濃町大字 柏原字上ノ原256-1、256-5	20583	70	36度 81分 13秒	138度 20分 28秒	20131001	5.4	試掘調査 (個人住宅)
しみず 清水東	長野県上水内郡信濃町大字 古閑字清水東1381-7、1381-2	20583	90	36度 76分 50秒	138度 21分 93秒	20130606 ～ 20130607	6	試掘調査 (個人住宅)
ひなま 日向林B	長野県上水内郡信濃町大字 野尻字日向林2257-167	20583	105	36度 80分 20秒	138度 22分 91秒	20130530 ～ 20130604	7	試掘調査 (個人住宅)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
小本道	散布地	縄文時代		出土品なし				
川久保	散布地	近世		石臼 1点、古鏡 4点				
東墓	散布地	縄文時代		土師器 12点				
清水東	散布地	中世		珠洲焼片 1点				
日向林B	散布地	縄文時代		縄文土器片 2点				

平成25年度町内遺跡発掘調査報告書

発行 平成26年(2014)3月31日
 発行者 信濃町教育委員会
 〒389-1305
 長野県上水内郡信濃町大字柏原428-2
 TEL 026-255-5923
 印刷 信毎書籍印刷株式会社
 〒381-0037
 長野県長野市西和田1-30-3
 TEL 026-243-2105